

# あけぼの

第27号

令和元年7月16日発行

教委人権教育課

☎229-3253 FAX 229-3017



**誰にとっても生きやすい社会をつくるために**  
～性別に対する固定的な意識を見つめ直してみませんか～



皆さんは女性がバスやタクシーを運転している姿を見て、どんなことを思いますか。「あっ、女性の運転手だ」と驚きますか。「今まで男性の仕事と思っていたけど、女性もするようになったんだ」とうれしく感じますか。それとも、「これは当たり前のことだ」と特に気にすることはないですか。

女性の活躍が叫ばれ、企業において少しずつ女性役員や管理職が生まれ、かつて「男性の仕事」とされた領域にも女性が増えてきています。性差による職業選択や仕事上での不平等感は改善されつつあるように感じます。しかし、そんな社会の変容は、私たち一人一人の意識の中で「当たり前」の姿となっているのでしょうか。性別に対する固定的な役割分担意識など、社会通念や私たち一人一人の意識といった問題はのでしょうか。

さまざまな人権課題の解決に向けたこれまでの取り組みから、人々の意識が変わることが制度や社会

の仕組みを変え、また制度や社会の仕組みが変わっていくことで、さらに多くの人々の意識が変わっていくことが明らかになってきています。今回のあけぼのでは、ジェンダーフリーの視点を大切にしながら、「女性の人権」をテーマに考えていきます。三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」の取り組みや株式会社中広 三重支社で働く皆さんの生き方や気付きを通して、社会通念や性別に対する自分たちの意識について考えるきっかけにしたいと思います。

今日の社会を構成する私たち一人一人が、まずは「自分は女性の人権に対してどう考えてきたのだろう、どうしていけばよいのだろう」と自分のこととして捉えていくこと。そのことが、職場や学校、地域など社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず、誰もが個性と能力を十分に発揮できる社会、つまり誰にとっても生きやすい社会をつくることにつながるのではないのでしょうか。

人権  
コラム

## 津市役所で 職員人権研修を開催



津市では、職員一人一人が豊かな人権感覚を身に付け、人権尊重の視野に立って業務に取り組むことを目的に、毎年、職員を対象に人権研修会を開催しています。今年は「人権問題に関する市民意識調査結果から見えてきたこと」と題して、公益財団法人反差別・人権研究所みえ(ヒューリアみえ)調査・研究員の原田朋記さんのお話を聞きました。

原田さんから、人権問題に対して地域の実情に応じた対応をするためには、行政、学校、地域、家庭で共に考え取り組んでいくことが大切で、そうすることで差別の解消を推進し、差別のない社会の実現につながるの話がありました。また、人権に関する講演会・研修会に参加したり、人権問題の解決に

熱心に取り組んでいる人と出会ったりすることで、人権意識の高揚がみられることから、津市として人権啓発の取り組みを継続していくとともに、一人一人の職員が高い人権意識を持ってほしいと語られました。さらに、現在もなお差別が存在し、そのような社会をつくっているのは私たち一人一人だということを自覚し、人権問題にどのように取り組んでいくかを考え、実践することが必要だと締めくくられました。

職員からは「人権問題は社会全体の問題であることを改めて認識した」「社会にはさまざまな差別が存在し、そのことで生きにくくさせられている人たちがいることを実感した」などの意見がありました。私たち一人一人の意識を変えていくことが社会全体の意識の変化につながります。今回の研修で学んだことを生かしながら、市職員から人権意識の輪を少しずつ広げていきたいと思っています。